

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(142号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一

●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰 黙想 — 信仰の再確認

●明けましておめでとうございます。

主の2020年、皆様の健康が守られ、神の恵みが豊かな年となりますようにお祈りをいたします。そして、過ぐる1年間もこの小さい群れが神の憐れみと共に、皆様の祈りと励ましによって支えられたことを深く感謝しております。

● 年末に、新年を迎えるに当たり、今、何をすべきかを默想する中で、自らの今の歩みを神の前で、再点検することが大切だと示されました。あの自らの心の醜さから絶望し、生きることが許されないと自殺未遂までした過去と、そこから救い出されて50年に及ぶ信仰生活、そして現在の歩みを振り見、神が私に何をしてくださってきたかを確認しました。

● 小さな信仰者として、神の教えの光に照らし、私が神に救われたとはどういうことか、それは何のためか、それはどのようにしてなされたのかを静かに考えました。

● 自分が何から救われたのか。それは神に背を向けていて自分の思いのままに生活していた私が当然受けるべき「神の怒り」からの救いであり、罪の支配から神の子とされる解放であり、闇から光へ、死から永遠のいのちへの復活の希望が約束として与えられたことです。

● また、それは自己中からの解放であり、神と人に仕えることによって神に栄光を帰すためです。そのことは、日々の生活でインマヌエルと言われる神とイエスの模範に倣い、欠けの多い自分を認め、キリストの御姿に似たものとされることを願って、一緒に忠実に歩むことによってしかできないことをもう一度確認しました。

● この驚くべき恵みは、私が為した何かの報償とか見返りではなく、一方的な神の愛であり、憐れみです。主イエスが私の罪の身代わりとして死んだこと、墓に葬られ、3日目に甦ったことを信じる信仰によって無償で与えられたものです。

● 「残りの者（シャーアル）」を目指して歩むことを教えられて過ごした歳月は、実際は決して神に褒められるようなものではありません。神の御心を知りながらも従えなかったことの多くあることも率直に認め、日々新たにされることを願っています。

● そのために、今、神から求められていることは「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいる」（ヘブル12/2）の勧めを心に刻み、日々の選択でいつも主の思いを自らの思いに優先させる歩みをすることだと教えられています。主が何を為してくださるかに期待を持って新しい年の一步を踏み出します。

■ 先月の多くの恵みから

① 12/7に渡波のThe Rockで（Be One Church）「石巻みんなのクリスマス 2019」を市民と共に持つことができました。阿部が信仰の証しをする機会が与えられました。多くの市民が参加してくださり、ほっとなクリスマス祝会となりました。

② 12/22は、石巻山城町教会で合同のクリスマス礼拝を持たせていただき、楽しい祝会もご一緒に交わりを頂きました。

③ 12/13に博多ニューライフ教会の元 菊枝さんチーム4名が、今年も楽しい手芸の会のメンバーのために、クリスマスツリー作成ワークショップを開いてくださいました。

④ 12/29、今年最後の礼拝は、メンターの森谷正志師が奉仕くださることになりました。2020年1月1日は、11時より「元旦礼拝」を持ち、新たな心で信仰の歩みを始めます。



⑤ 12/23に、「楽しい手芸の会」のクリスマス祝会がもたれこの1年間も様々なものを作成でき、親しい交わりができたことを感謝しました。

⑥ 12/1に、奥様を天に送り一人で生活されている山形県戸沢村在住の斎藤照身さんが自分が採取した山菜や野菜を用いて人工添加物を一切用いないで作った様々な漬物を沢山送って下さいました。

⑦ 12/25に、多忙な中で市内のクリスチャンが合同で学べる機会を毎月作って下さっている川上直也師が「ゆるしについて」の学習会を今月も導いて下さいました。聖書と共に様々な視点からものを考える力を育てて下さっています。

⑧ ICC(石巻クリスチャンセンターの機関誌に、今回私たちの石巻祈りの家」を紹介して下さることになり、原稿を届けました。

⑨ 12月は、ここに報告できないほど多くの方々からクリスマス・カードのほか尊い献金、さまざまな献品を頂き、励ましを頂き、感謝しました。多くの方々の愛の配慮に心からの感謝を申し上げます。

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

① 今野かつ子さん/新井勝太・李恵子夫妻/Deiさんの治療のために構木紀男先生の奥様/阿部 晃さん/大橋久三郎さん/Skyeさんの闘病のために② ICCの働きと石巻の各教会の働きのために。③ 大平英秀さん/佐藤 隆さんのために。④ 今年の自然災害による被災者のために。⑤ 水明地区から神を真剣に求める求道者が興されるように。⑥ 来年の渡辺総一絵画展の準備のために。

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」 (第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応えて)	

信仰を詠う

01月 15,19号の台風より

ゴオゴオと地を削りゆく濁流が
家屋を潰し車を流す

生きている幸いなぞと殊勝げに
茶の間のテレビに土石流を見て言う
地の上に禍残して野分け去る
月は天心に常と変わらず



今野 かつ子

今年もあと残すところ半月
数多くの出来事があったせ
いか“あっ”という間に過ぎ
したように思う2019年でした。

2019/11月末～2019/12月末までの教会活動の様子と地区教会活動との関わり



12/22 クリスマス礼拝を山城町教会と合同で

祝会のお交わりは、何と「スキヤキ」で！

12/7 Be One Church で、市民のみなさんと「みんなのクリスマス 2019」



12/13 今年も 博多ニューライフ教会の元 菊枝チーム4名が、私たちの教会と「希望の家」(Dean師)で、クリスマス・ツリー作成ワークショップを

お交わりも楽しく！



12/23 「楽しい手芸の会」メンバーが集ってクリスマス会を クリスマスソングを歌い1年間沢山のものを作成した思い出を語る 真剣に学び合う「聖書を読む会」の12月例会

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

私の喜び“主”

石巻祈りの家

阿部秀子

2019年の秋、母が逝った年齢に私もなりました。振り返るとず~っと遠い日々、恵みとしか言いようのない年月でした。

「娘を産んでくれ」という父親の願い！ 母が身ごもると、モーツアルトやベートーヴェンのレコードを「胎教だ」とかけていたそうです。「家に帰ってくると、あんたを腕から離さなかつた」と母がよく言ってました。（本人は民謡と浪花節の人でした）弟が2人生まれましたが、父からも母からも叱られた記憶がなく、私が小さな娘を叱った時、「子供を怒るもんではないよ。私に叱られてことがあった？」それでも三人共立派に育ったよ。」と。総領の甚六の言葉通り、全くのんびりと少女時代を過ごし、今もきっとその性格が変わらないのだと思います。幸せな日々でした。

でも、最高の幸せは、救い主である主にお会いできたことです！ 学生時代、阿部次郎の「三太郎の日記」に夢中になり、まるで夕暮れの荒野で無くした自分の目を探しているように、「分からぬ！」、「知りたい！」、「動かない確かなものは何？」と泣きながら探し求めていました。そして、

3年生の秋に。私はキリストというお方にお会いできました。罪からの救いをしっかり確信したときでした。どんなに教会の方から祈られていたかを後で知りました。

最終学年の冬、母校に勤務の決まった私は、自分が教会から離れて一人になるんだという不安からもっと深く神様を知りたいと願い、他の大人の兄姉に混じって箱根であったケズイック・コンヴェンションに参加しました。そこで、主にある歩みを示されたと思います。

3年後、結婚に導かれ（夫は学生時代、同じ教会員でした）彼の任地、酒田に住むようになりました。娘時代、第一コリント7章34節から「独身の女や処女は、身も魂も聖くなるため、主のことに心を配りますが、結婚した女は、どうしたら夫に喜ばれるかと。世のことに心を配ります。」とあり、私は結婚しても、そうなりたくないと思っていました。信仰者としての道は、たとえ夫婦で

も並んで通れない細道であり、どこまでも主と私の関係が深くないと、共にある生活はできないと、今も思います。そして結婚についてよく言われること「どんなに好きでも必ず飽きる時が来る。結婚ってそんなものよ。」恐ろしいことでした。ホントにそうなる？ それで、私は主に願い求めました。「私の彼への愛をあなたにささげます。どうぞ、いつまでも変わらず夫を愛し続けるあなたの愛を私にください」と。願いは聞かれています！ 私たち二人の性格は全く違います。「なんで、そんな風に考えるの？」ぼけっと感覚的でのんびり屋の私と、きっちり理詰めで几帳面な夫とは、「あらら！」、「うーん」が多いのですが、主のくださった愛の妙薬は特別なもののように。苦しく悩みの多い日々を過ごした夫は「貧乏でもいいから家にいてほしい」と。私は仕事を辞めました。それでも伊藤美保子牧師夫人が教会で子羊愛児園を開いたとき、そのお手伝いの仕事を頂き、少し離れた處でピアノのレッスンもしていました。

そして、主は三人の子供たちを私たちに下さいました。初めの子は流産で、ハンナのように泣いて祈った私は、3ヶ月後、なぜか男の子が与えられたと確信しました。3,850gの長男です。酒田は特に冬、突然頭上で足踏みするような雷が鳴り、窓ガラスにビリビリ響いてとても恐ろしかったのですが、小さな赤んぼうが腕の中にいる時、全く恐怖がなかったのが不思議でした。そしてなぜか「初子はわたしのものだ」との言葉が響いていました。2番目が与えられたと知ったときは、長男が6ヶ月の時でした。「こんなに小さいのに、お兄ちゃんになる！」喜んで下の子を迎えるようずっと祈り続けました。そして、3番目に女の子が直ぐに。年子はいいものです。放つておいても一緒に団子のようにいつもくっついて遊んでいて。

「子供って面白い！」手ざわりも匂いも、語ることばも。私は十分に樂みました！ よその人に伝道は難しいけど、自分の子供に神様を伝えることができるその喜びを頂きました。三人は中3、中2、小6で太平洋で受洗しましたが、海の中の三人をみながら、私は「もう一度産みの苦しみをする」のみことばが聞こえていました。本当に心から主を信じ、主を愛するクリスチヤンに成長するための時間が要るからです。そして、この祈りも聞かれました。主は、生きておられます。今は、なお深く私を命がけで愛してくださった主に、ぴったりくっついて歩みたいと願っています。すべてに、アドナイ・イルエでした。

感謝！

